

向ヶ丘第二自治会(向能代) 33世帯

藤田 まさお 正男さん(63歳)



多くのスタッフがかかわる、いきいきテント村



「事業の盛り上がりはすごいです。会員の協力に感謝しています」

ここは第一次大火後に応急住宅が建てられたところで、当時は4軒で一棟の長屋でした。

自治会では2年に一回町内レクを行います。多くの人が参加できるよう個人負担はありません。

大きな行事は連合会で行います。自治会役員とは別に、各自治会からイベント実行委員として3~4人ずつ出て、とても頑張ってくれます。冬のいきいきテント村や夏の子ども七夕、養護学校が会場のしのめ夏祭りは、とてもにぎやかです。

6日には第7回障害者スポーツ・レクリエーション大会が行なわれました。今年で5回目の実行委員長ですが、体を動かす機会の少ない冬場に親ほくを兼ねて心地よい汗を流したいとの思いで始めました。障害者だけでなく、多くの市民に参加してほしいと願っています。毎年いろいろなイベントにかかわっていますが、あまりお金をかけずできることは自分たちでとってやっています。

まちかど

ウォッチング



よーいどん!!

2月26日、総合体育館で能代市山本郡室内陸上競技大会が開催されました。

外の寒さを忘れるかのように子どもたちは体育館の中を元気いっぱい走り回っていました。



いつも元気



おひなまつり生活発表会(淳城幼稚園)

のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

65

馬の絵(四) 「砂子田・八幡神社(二)」

同じ砂子田八幡神社にある絵馬です。これは少し早く明治十三年、砂子田の舁屋仁右衛門が奉納したものです。これには縁がなく、小絵馬といわれます。縦四十センチ、横六十二センチです。杭に手綱が繋がれていて、足を踏ん張って離れようとする馬の姿です。体が前の方に行っているの、見返り繋ぎ馬ともいうようです。馬を操る人物はいませんが、背当ては赤地に黒糸で格子状の模様をつけ、紙垂、首に巻く赤い房、轡や面繋なども朱に染めています。飾り気が多い献納馬です。馬の絵もしつかりして、やはり相当の書き手がいたものと思われまます。

こうした常盤や砂子田に見られる奉納絵馬は、信仰的な要素が強いと思われるが、馬産地としての要素も考えられます。常盤は山谷・大柄の奥、焼山の裾まで、放牧地が広がっており、

農耕よりも馬産を主として

いたようです。特に明治末

から駿馬は軍に高く買われ、

それが刺激になって軍馬の

飼育が盛んになりました。

また軍から飼育を要請され

ることもあり、軍用保護馬

として気が抜けないという

一面もあったようです。軍

事協力がこのような形で農

村に求められました。しか

し農家が馬を飼育する基本

は、農耕馬と子馬の飼育に

ありました。(古内龍夫)

